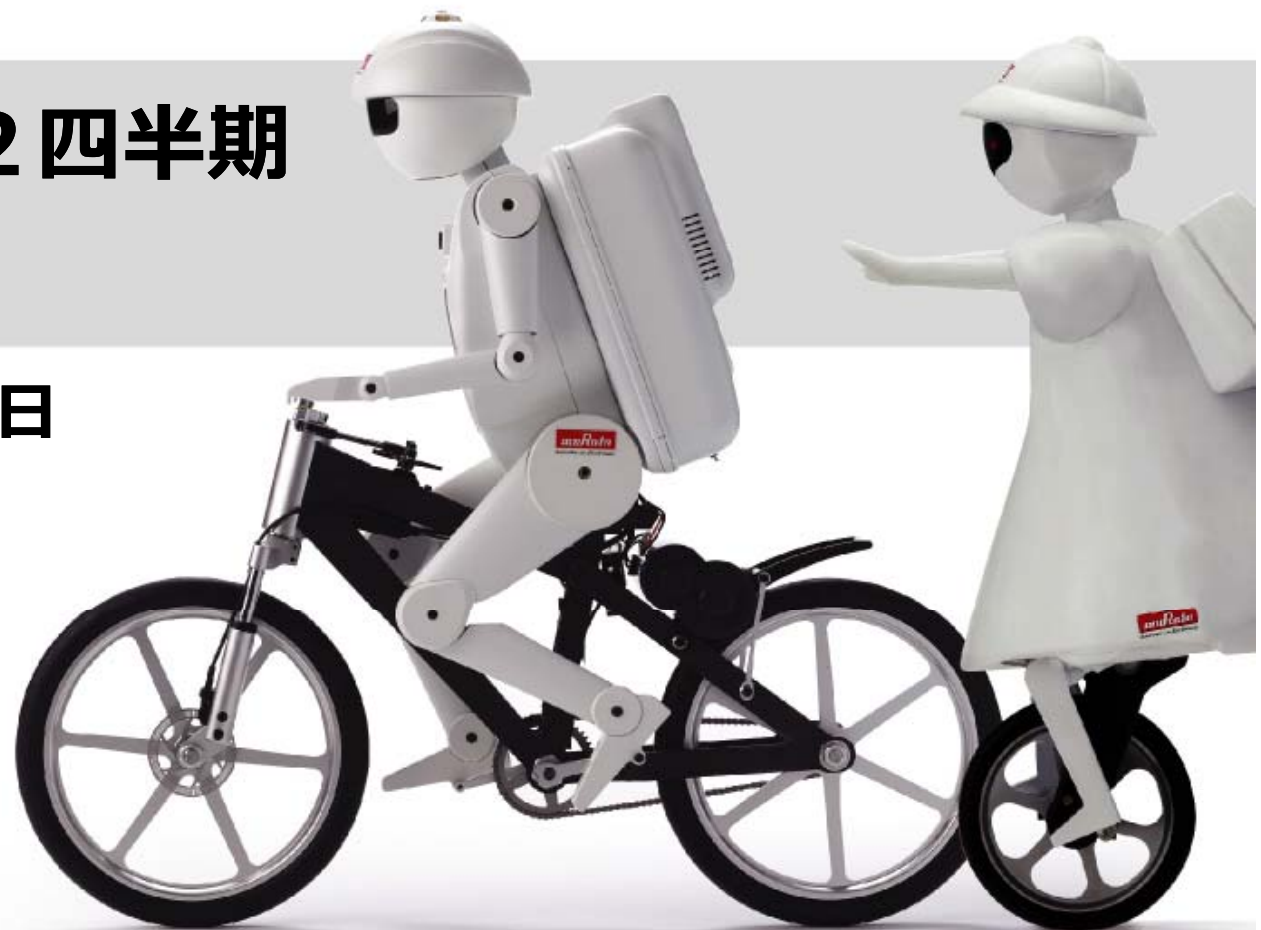


2013年度第2四半期 決算説明会

2013年10月31日
株式会社村田製作所



1. 2013年度 第2四半期業績概要

2013年7月～2013年9月

第2四半期連結会計期間

当第2四半期決算のトピック



- ◆ **当第2四半期の売上高は、前四半期に引き続き、四半期ベースの過去最高を記録。スマートフォン、タブレット端末や自動車向けなど、幅広い製品で需要が大きく拡大。**
- ◆ **営業利益は、前四半期に引き続き、四半期ベースでリーマンショック後の最高を更新し、営業利益率は19%に上昇。**
- ◆ **上期の業績予想に対する達成率は140%となり、通期の業績予想を上方修正。**

※ 8月1日付で完全子会社化した東京電波株式会社は、3か月遅れ（1四半期ずれ）での連結決算への反映となります。

業績概況



	2012年度		2013年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		13Q2/13Q1		13年上期/12年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	3,147	100.0	1,926	2,216	4,141	100.0	+290	+15.0	+994	+31.6
営業利益	244	7.7	249	425	674	16.3	+175	+70.3	+431	+176.9
税引前四半期純利益	230	7.3	247	437	683	16.5	+190	+76.7	+453	+196.9
四半期純利益	151	4.8	175	302	476	11.5	+127	+72.6	+325	+215.0

製品別売上高



	2012年度		2013年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		13Q2/13Q1		13年上期/12年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,089	34.8	661	723	1,384	33.5	+62	+9.4	+295	+27.1
圧電製品	388	12.4	242	243	485	11.8	+1	+0.5	+97	+25.0
その他コンポーネント	666	21.2	353	430	783	19.0	+77	+21.7	+118	+17.7
通信モジュール	755	24.1	520	677	1,197	29.0	+157	+30.2	+442	+58.5
電源他モジュール	237	7.5	143	135	278	6.7	▲8	▲5.3	+41	+17.4
製品売上高計	3,135	100.0	1,919	2,209	4,128	100.0	+290	+15.1	+993	+31.7

製品別売上高概況

[2012年度上半期→2013年度上半期]



コンデンサ (前年同期比+27.1%)	○ チップ積層セラミックコンデンサ(MLCC) 主に携帯電話、カーエレクトロニクス向けで大きく伸長
圧電商品 (前年同期比+25.0%)	○ 表面波フィルタ モジュール化の進展で社内取引の割合が高まったものの、携帯電話の生産台数増加と1台当たりの搭載点数増加により非常に好調 ○ 圧電センサ ショックセンサがHDD向けで搭載点数の増加により大きく伸長 ○ 発振子 家電・その他向けやカーエレクトロニクス向けで好調
その他コンポーネント (前年同期比+17.7%)	○ EMI除去フィルタ カーエレクトロニクス向けや通信向けで好調 ○ コイル、コネクタ スマートフォン向けを中心に大幅に増加 ○ センサ MEMSセンサがカーエレクトロニクス向けで大きく伸長
通信モジュール (前年同期比+58.5%)	○ 近距離無線通信モジュール スマートフォン、タブレット端末向けが大幅に増加 ○ 通信機器用モジュール及び多層モジュール 新製品の投入効果もあり、スマートフォン向けが飛躍的に増加
電源他モジュール (前年同期比+17.4%)	○ 電源 サーバーやカーオーディオ向けで大きく伸長

製品別売上高概況

[2013年度第1四半期→2013年度第2四半期]



コンデンサ (直近四半期比+9.4%)	○ チップ積層セラミックコンデンサ(MLCC) 携帯電話向けを中心に小型大容量品が大幅に増加
圧電商品 (直近四半期比+0.5%)	○ 表面波フィルタ モジュール化の進展で社内取引の割合が高まったものの、デュプレクサがスマートフォン向けに増加するなど、全体として堅調 ○ 圧電センサ ショックセンサがHDD向けに増加したほか、車載向けにも伸長 ○ 発振子 セラミック発振子が車載向けに増加
その他コンポーネント (直近四半期比+21.7%)	○ EMI除去フィルタ、コイル、コネクタ 主にスマートフォン向けに大幅に増加
通信モジュール (直近四半期比+30.2%)	○ 近距離無線通信モジュール 携帯メディアプレーヤー、タブレット端末向けが減少したものの、スマートフォン向けで大幅に伸長 ○ 通信機器用モジュール、多層モジュール 新製品の投入効果もあり、スマートフォン向けで飛躍的に増加
電源他モジュール (直近四半期比▲5.3%)	▲ 電源 カーオーディオ向けは堅調だったものの、アミューズメント向け、サーバー向けが減少

用途別売上高



	2012年度		2013年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		13Q2/13Q1		13年上期/12年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	238	7.6	109	126	235	5.7	+17	+15.8	▲3	▲1.2
通信	1,422	45.4	928	1,175	2,103	50.9	+247	+26.7	+680	+47.8
コンピュータ及び関連機器	645	20.6	352	364	716	17.4	+12	+3.5	+72	+11.1
カーエレクトロニクス	509	16.2	283	295	578	14.0	+12	+4.3	+69	+13.6
家電・その他	321	10.2	248	248	496	12.0	+0	+0.2	+175	+54.6
製品売上高計	3,135	100.0	1,919	2,209	4,128	100.0	+290	+15.1	+993	+31.7

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

[2012年度上半期→2013年度上半期]



AV (前年同期比▲1.2%)	○セットトップボックス向けでMLCCが大幅に伸長 ▲近距離無線通信モジュールはデジタルカメラ向けに大幅に伸長したものの、携帯メディアプレーヤー向けが低迷
通信 (前年同期比+47.8%)	○スマートフォン向けでLTE端末の生産増加により、多層モジュール、近距離通信モジュール、通信機器用モジュールが大幅に増加 ○新興国における3G端末へのアップシフトにより、表面波フィルタ、小型大容量MLCC、コイルなどが大きく伸長
コンピュータ及び関連機器 (前年同期比+11.1%)	○タブレット端末向けで近距離無線通信モジュールや表面波フィルタが大幅に増加 ○HDD向けでアクチュエータや圧電センサが伸長
カーエレクトロニクス (前年同期比+13.6%)	○カーオーディオ向けで電源が大きく伸長 ○安全装置向けでMEMSセンサが大幅に増加 ○車の電装化の進展により、車載用MLCCが大きく増加

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

[2013年度第1四半期→2013年度第2四半期]

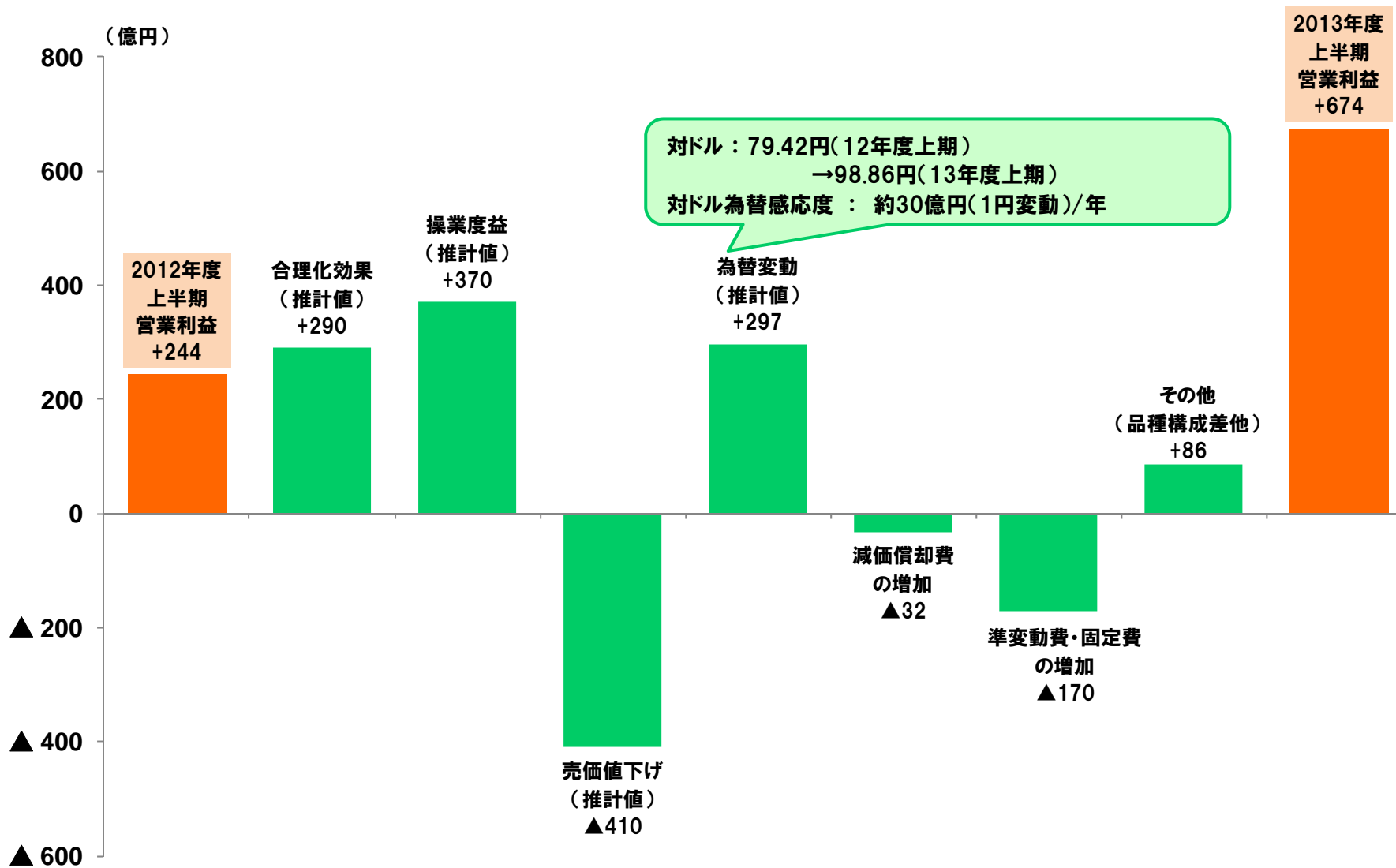


AV (直近四半期比+15.8%)	<ul style="list-style-type: none">○近距離無線通信モジュールは携帯メディアプレーヤー向けが振るわなかったものの、デジタルカメラ向けが大幅に増加○ゲーム機向けでMLCCやEMI除去フィルタが大幅に増加
通信 (直近四半期比+26.7%)	<ul style="list-style-type: none">○スマートフォン向けでLTE端末の生産増加により、近距離無線通信モジュール、通信機器用モジュール、多層モジュール、コネクタ、小型・大容量MLCCなど幅広い製品で大きく伸長
コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比+3.5%)	<ul style="list-style-type: none">○ノートPC、MPU向けでMLCCが増加○プリンタ向けで電源が好調▲近距離無線通信モジュールがタブレット端末向けで減少
カーエレクトロニクス (直近四半期比+4.3%)	<ul style="list-style-type: none">○安全装置向けにMEMSセンサが大幅に増加○カーナビ、カーオーディオ向けでMLCCが増加

(注) 当社推計値に基づいております

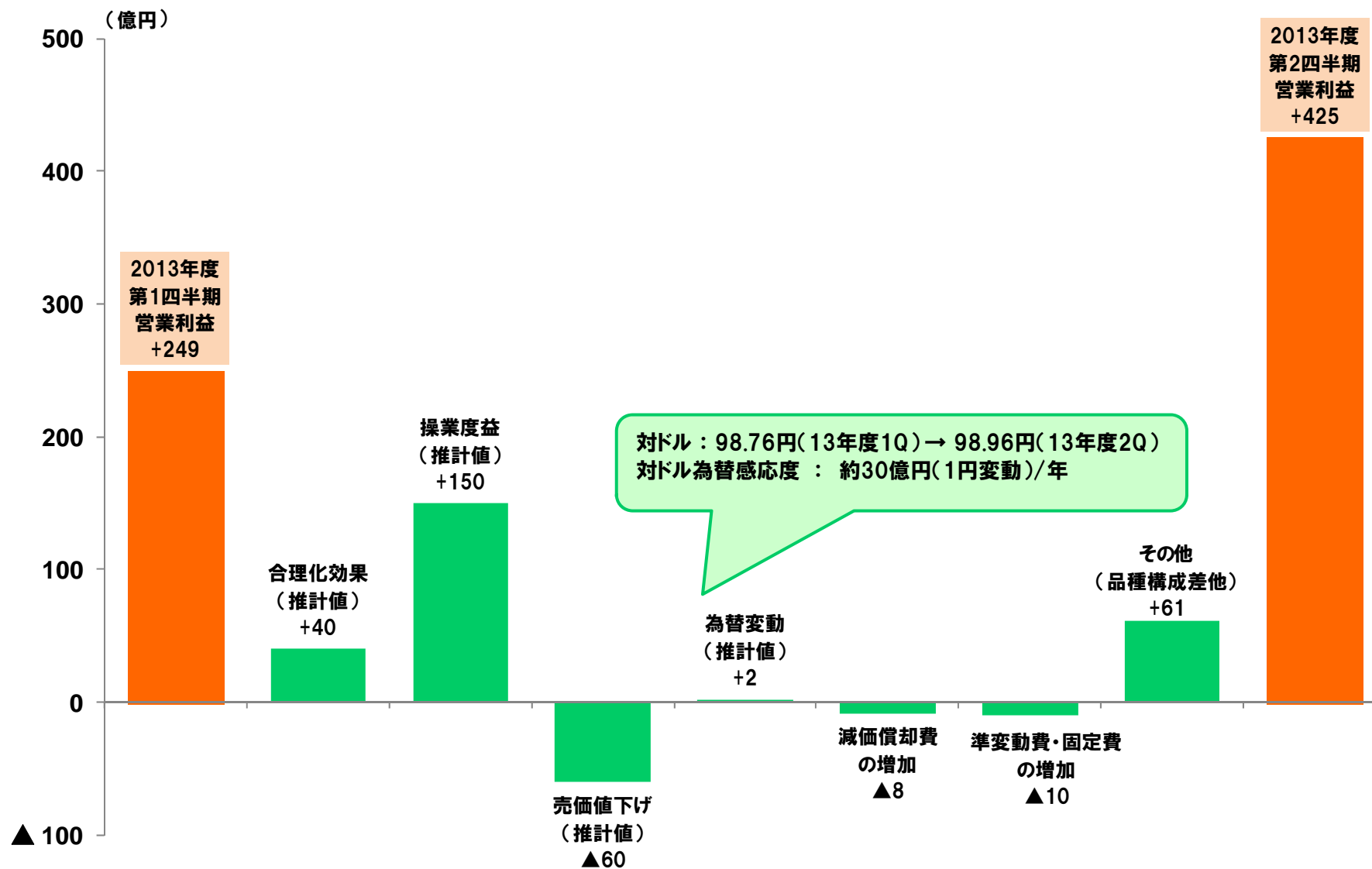
利益変動要因

[2012年度上半期→2013年度上半期]

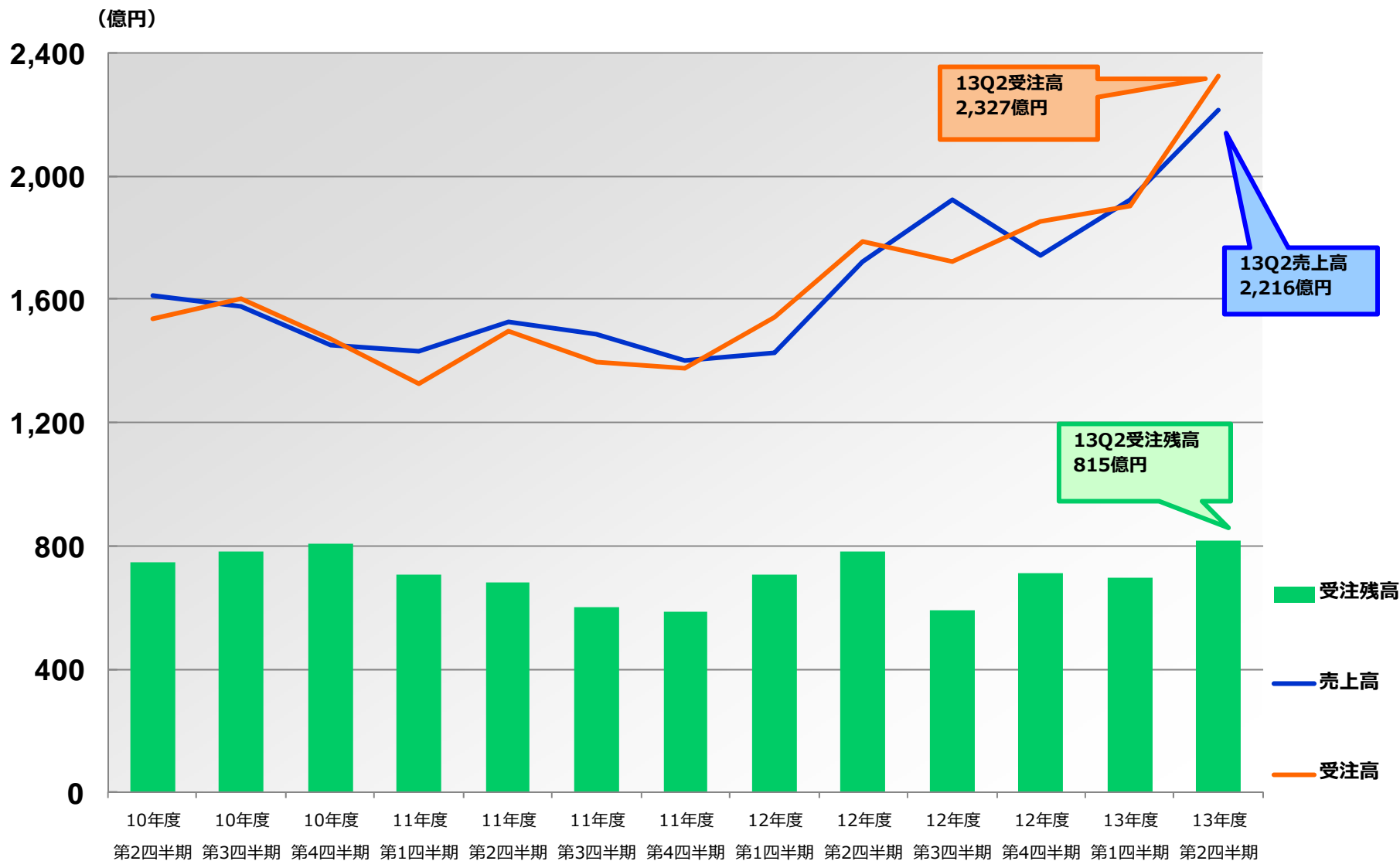


利益変動要因

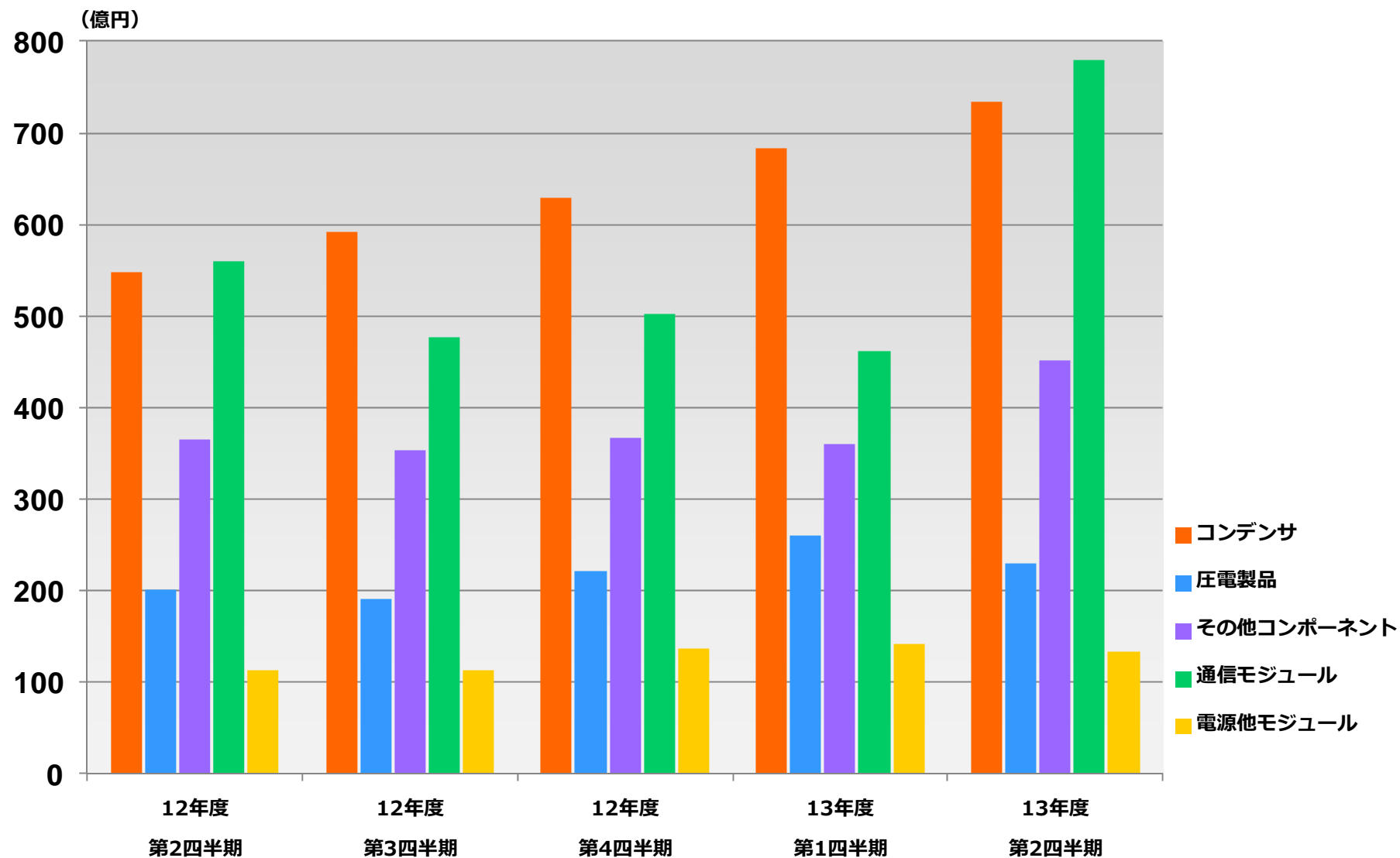
[2013年度第1四半期→2013年度第2四半期]



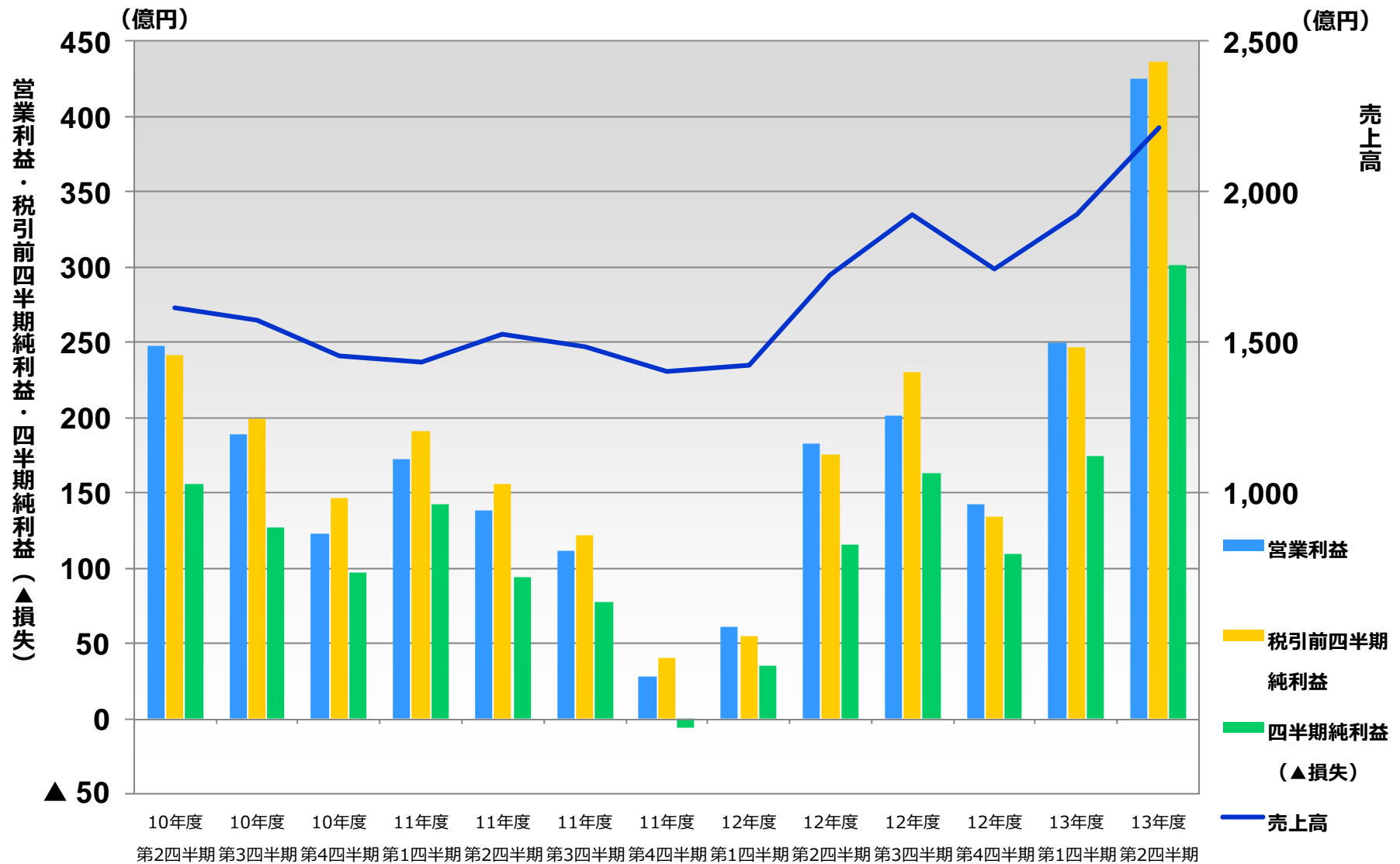
売上・受注・注残推移 [四半期]



製品別受注高推移



業績推移 [四半期]



2. 2013年度 業績予想 (2013年4月～2014年3月)

部品需要予測[通期/通信]



2012年度 2013年度予想

携帯電話 合計	16.4 億台	→	17.1 億台	+4%	
2G	7.4 億台	→	5.9 億台	▲21%	
3G	7.3 億台	→	7.9 億台	+8%	
LTE	1.7 億台	→	3.3 億台	2倍	
スマートフォン	7.8 億台	→	10.3 億台	+32%	

部品需要予測[通期/PC及び関連機器、AV]








2012年度 2013年度予想

PC	4.6 億台	→	4.6 億台	横這い	→
デスクトップ	1.3 億台	→	1.3 億台	横這い	→
ノートブック	2.0 億台	→	1.7 億台	▲15%	↘
タブレット	1.4 億台	→	1.6 億台	+14%	↗
薄型TV	2.2 億台	→	2.1 億台	▲5%	↘

部品需要予測[半期/通信]

2013年度上期 2013年度下期予想

携帯電話 合計	8.7 億台	→	8.3 億台	▲5%	
2G	3.1 億台	→	2.8 億台	▲7%	
3G	4.2 億台	→	3.7 億台	▲10%	
LTE	1.5 億台	→	1.8 億台	+15%	
スマートフォン	5.1 億台	→	5.2 億台	+2%	

部品需要予測[半期/PC及び関連機器、AV]



2013年度上期 2013年度下期予想

PC	2.2 億台	→	2.4 億台	+12%	
デスクトップ	0.7 億台	→	0.6 億台	▲3%	
ノートブック	0.9 億台	→	0.8 億台	▲2%	
タブレット	0.7 億台	→	1.0 億台	+43%	
薄型TV	1.1 億台	→	1.0 億台	▲3%	

製品別売上予想

	2013年度 通期予想 (前年度比)	2013年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	+19%程度	▲3%程度
圧電製品	+11%程度	▲15%程度
その他コンポーネント	+8%程度	▲9%程度
通信モジュール	+36%程度	+8%程度
電源他モジュール	+18%程度	横這い
製品売上高計	+20%程度	▲2%程度

用途別売上予想

	2013年度 通期予想 (前年度比)	2013年度 下期予想 (上期比)
A V	▲5%程度	▲9%程度
通信	+25%程度	▲3%程度
コンピュータ及び関連機器	+10%程度	+6%程度
カーエレクトロニクス	+13%程度	横這い
家電・その他	+40%程度	▲18%程度
製品売上高計	+20%程度	▲2%程度

(注) 当社推計値に基づいております

2013年度 業績予想



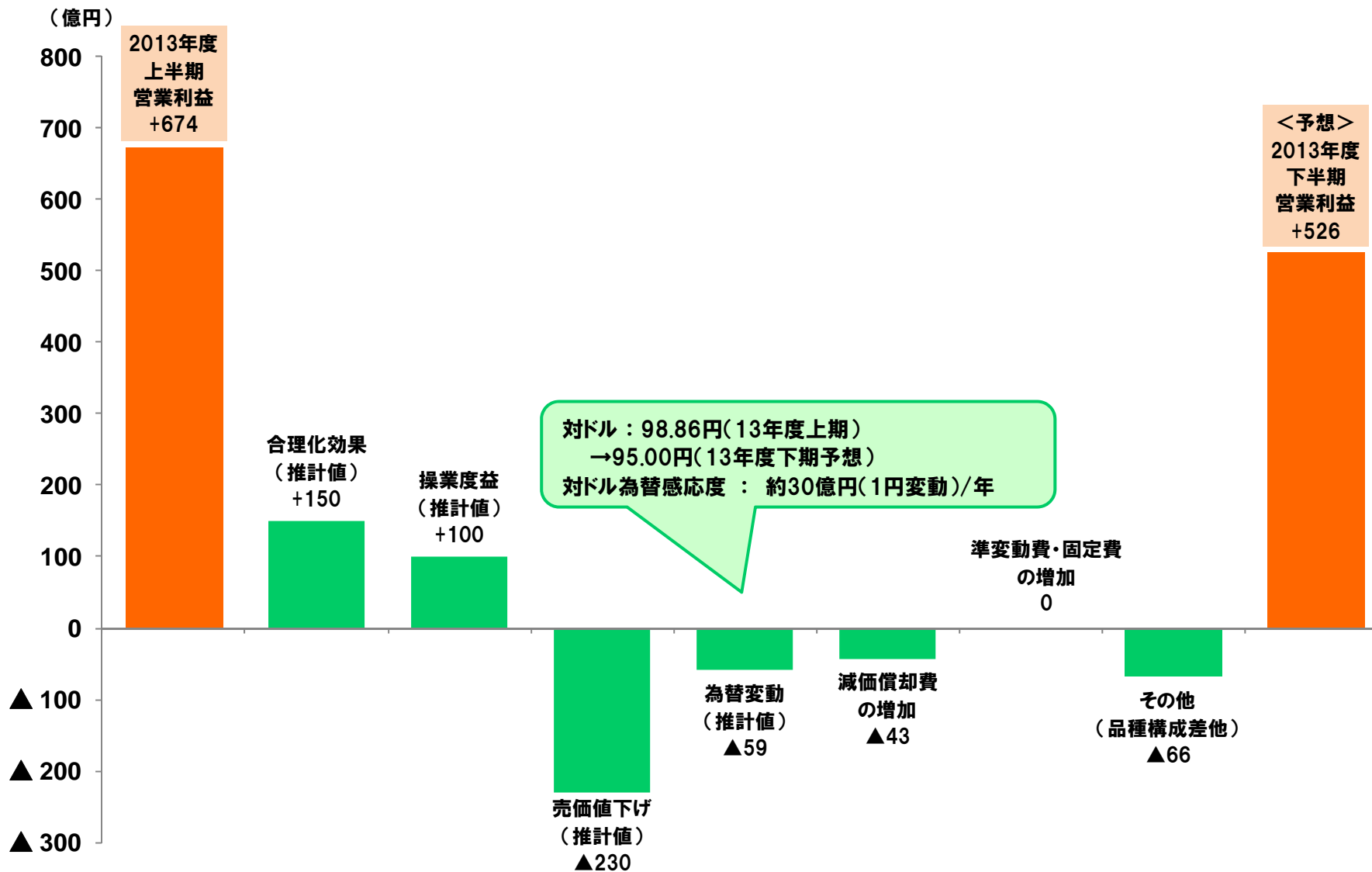
	前回予想 (13年4月)			今回予想					
	上期予想	下期予想	2013年度 通期予想	上期実績		下期予想		2013年度 通期予想	
				(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	3,800	4,000	7,800	4,141	100.0	4,059	100.0	8,200	100.0
営業利益	480	520	1,000	674	16.3	526	13.0	1,200	14.6
税引前当期純利益	500	550	1,050	683	16.5	547	13.5	1,230	15.0
当期純利益	330	370	700	476	11.5	384	9.4	860	10.5

業績予想の前提

	2013年度 上期実績	2013年度 下期予想	2013年度 通期予想
減価償却費	363 億円	407 億円	770 億円
研究開発費	265 億円	285 億円	550 億円
設備投資額	388 億円	382 億円	770 億円
為替レート(US\$)	98.86 円/US\$	95.00 円/US\$	
為替レート(EUR)	130.01 円/EUR	125.00 円/EUR	

利益変動要因

[2013年度上半期→2013年度下半期予想]

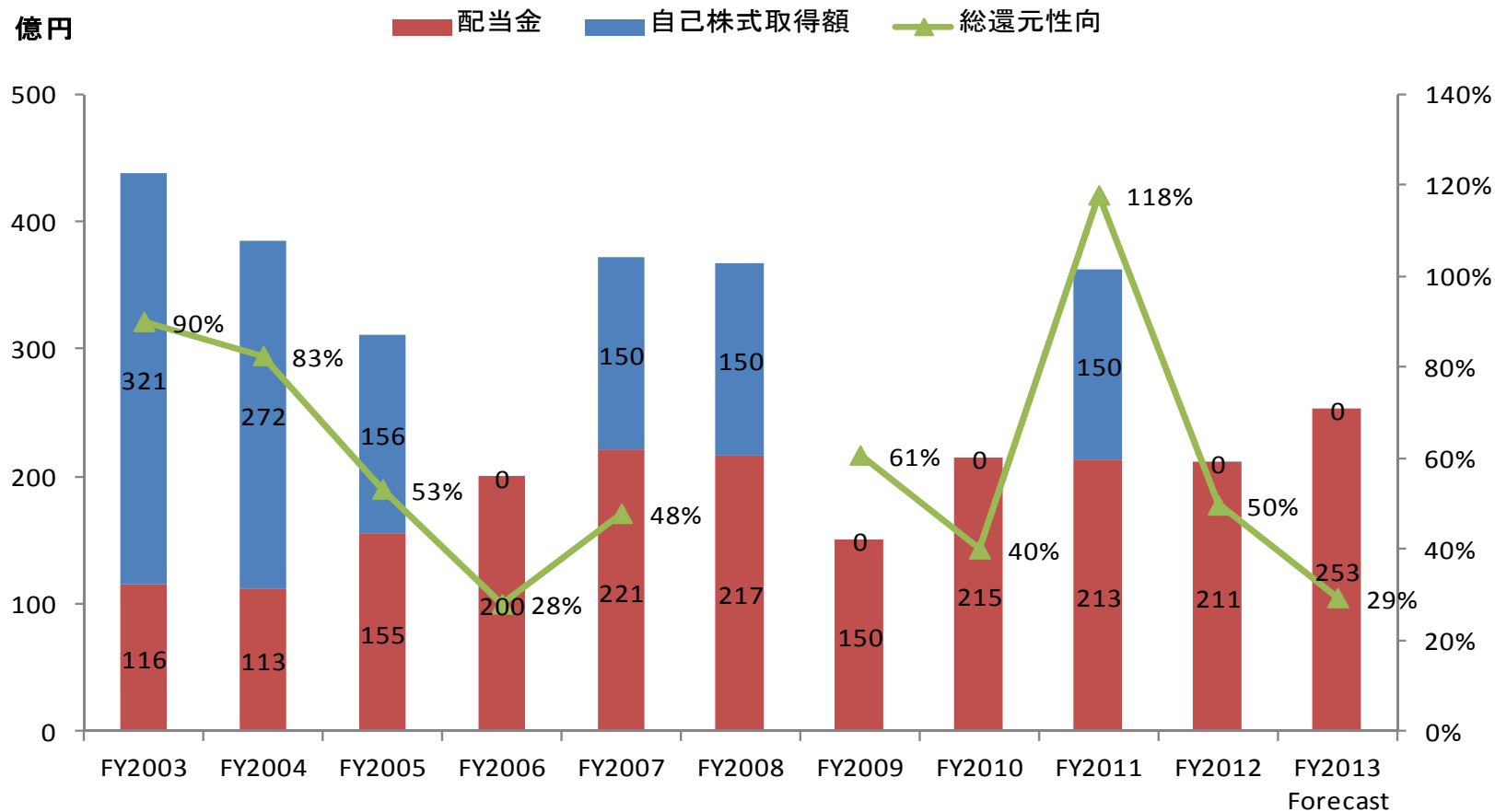


**2013年度（2014年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間120円（うち中間配当60円）**

**2012年度の配当実績
1株当たり年間100円（うち中間配当50円）**

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります。

株主還元推移



利益還元策としては、配当による配分を優先的に考え、1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めます。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

